

## 87th 新制作展 スペースデザイン部受賞作家展

2025年2月2日（日）～2日（土） 建築会館ギャラリー（港区芝5-26-20）

出品作家：赤間洋子・石田純之助・井上国明・吉田桃香

### 【作品と作家の紹介】

#### ＜赤間洋子＞



左：「白夜」White night（素材：麻生平、インド藍液）  
中：「邂逅」Encounter（素材：麻生平、インド藍液）  
右：「波」Wave（素材：麻生平、インド藍液）



長年藍の絞り染めの作品を制作してきたが、麻生平という布に出会ってからは布を折り畳んで染める方法を考えた。この布は染めた後に絞りの糸を解いても形状が保たれるのが面白い。折り方に変化をつけたり、染め方に濃淡をつけたりすれば多数の作品を制作できるのが魅力である。



1935 東京都江東区生まれ  
1960 東京学芸大学理科 卒業  
1960～1992 都立高校化学 教諭  
1995 武蔵野美術大学通信教育部 卒業  
武蔵野美術大学田中秀穂名誉教授の勧めにより種々の展覧会に出品  
2018 国際絞り会議（多摩美術大学美術館）に出品  
2016～2024 新制作展 入選  
2024 第87回新制作展／新作家賞受賞

## <石田純之助>



「テンセグリティー（作品02）」 Tensegrity op.02  
（素材：鉄、ロープ、ステンレスワイヤー、ターンバックル、カラビナ、アルミスリーブ）

テンセグリティの構造を用いてバランスと浮遊感を演出する試み。キャンチレバーで支持される本体の質量とワイヤーの張力のバランスによる視覚効果を狙った。



「エチュード作品5」 Etude op.5  
（素材：コンクリート）

直方体のコンクリートを多孔質化し、視覚的な硬さと冷たさを中和する試み。  
2019年の石膏による有機形態「エチュード作品4」の進化形。



「テンセグリティー（作品 01）」 Tensegrity op.01  
 (素材:鉄、ロープ、ステンレスワイヤー、ターンバックル、カラビナ、アルミスリーブ)

Tensegrity(テンセグリティ)とは、Tension(張力)と Integrity(統合)を組み合わせた造語である。建築家バックミンスター・フラーによって作られた用語といわれている。力学的に釣り合う形から生まれる造形の視覚的な美しさを求めた作品である。op-01の「op」は(Opus オーパス)の意味で本来は、作曲された楽曲の通し番号の表記として使われる。テンセグリティの構造で作品を作ることは筆者の初の試みなので「01」とし、進化、発展の原点とした。

- 1972 東京都渋谷区生まれ
- 1996 日本大学芸術学部デザイン学科 ID 専攻 卒業
- 1997 ~ EV エコランカー / 椅子 / ソファー / 銀座ショーウインドウなどのデザイン及び制作
- 2019 ~ 日本大学芸術学部 デザイン学科 准教授
- 2019 第 83 回新制作展 / 初入選
- 2021 ~ 2022 新制作展 / 入選
- 2024 第 87 回新制作展 / 新作家賞 受賞

## <井上国明>



「生命根源シリーズ CUBE 1」 Life-Cube 1 (素材:陶)  
 (生命感による模様と構成)



「生命根源シリーズ CUBE 2」 Life-Cube 2 (素材：陶)  
(生命感による模様と構成)



「環」 Ring (素材：陶)  
(マルによる構成)



- 1996 東京都生まれ
- 2015 株式会社ナカダイ 第5回産廃サミット入賞
- 2017 第81回新制作展 入選
- 2017 住友化学株式会社 アカリ・イメージ企業賞
- 2018 第82回新制作展／新作家賞 受賞
- 2024 第87回新制作展／新作家賞 受賞

<吉田桃香>



左：いってらっしゃい Take care (素材：綿布)  
中：まだ優しい気持ちになれる  
I can be kind to someone (素材：綿布)  
右：大丈夫 You' re fine (素材：綿布)



最近、周りに出産する人が増えて、子どもについて考えることが多くなりました。子どもを育てること自体も大変ですが、いつの時代もさまざまな理由で授かることが難しいと感じる人がいると思います。その選択をすることができるか、できないかには、社会的なプレッシャーや個人的な希望、身体的・精神的な状況など、さまざまな要素が絡んでいるのだと思います。子どもを授かることは奇跡であり、その命を大切にしようという思いが私の中で強くなり、このテーマを作品にしました。また、どこかで誰かが授かった命を大切にしようと思う気持ちを込めています。

人は、生まれた時は誰もが「可愛く」、そして「無垢」だと私は思います。しかし、様々な環境下で揉まれることで徐々に人格が作られていきます。もちろん、自己形成の部分も大きいと思いますが、周囲の環境の影響も少なからずあると感じています。そうしたイメージをもとに制作しました。

言葉には、伝え方によって人の考え方や行動を変える力があると私は考えています。そして現在の日本は、自由に表現できる環境が整っており、それはとても恵まれていることです。今置かれている環境から最善の方向へと向かう方法を探し、見つけ変えていく力を持っていることを、私は伝えたいと思っています。

- 1995 熊本県生まれ
- 2014 くまもと「描く力」2014 入選
- 2016 女子美術大学短期大学部 専攻科 テキスタイルコース 卒業
- 2016 神奈川県美術展 入選
- 2024 第 87 回新制作展／新作家賞 受賞

### 【初日のオープニングセレモニーの様子】



### 【受賞作家展バーチャルツアー】

今回の受賞作家展のバーチャルツアーをご準備いたしました。展覧会にお越しになれなかった方にも会場の雰囲気を楽しんでいただけます。是非お試しください。→ <https://r93840544.theta360.biz/t/6fd2f2be-e125-11ef-bb7b-060182f6995f-1>